

社会科部会

研究主題

社会的事象を広い視野からとらえ、
よりよい生き方を考える生徒の育成

1 主題について

今年度は、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得に努めるほか、思考力・判断力・表現力等を確実にほぐすため、言語活動の充実を図り、社会参画に関する学習を重視することをねらいとして、本主題を設定した。今後は、新学習指導要領の完全実施へ沿ったものに検討することを確認した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月13日	第1回総合研究会 研究主題設定	10月28日	第2回総合研究会（南中学校） 授業研究協議会・新学習指導要領 実施に向けての確認と質疑

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成23年10月28日（金）
- ・会 場 南中学校
- ・単元名 2年「欧米の進出と日本の開国」
- ・授業者 成田 一彦

① 授業者から

- ・多面的、多角的に考えさせようと数多くの資料を準備した。本時の内容に関して、開国の影響についてまとめられた資料のほとんどがマイナス面を取り上げたものであり、プラス面のものがほとんど見当たらなかった。数値データなどの客観的な資料もあれば、判断するためのよい材料となったかもしれない。
- ・二者択一の授業は、生徒も意志決定がしやすいので、意欲的に取り組む。客観的なデータに裏付けされた意志決定能力が求められるので、段階を踏んで取り組ませながら、生徒の力を高めたい。
- ・言語活動の充実を意識し、グループ活動や発表の聞き合いなどを随時取り入れている。
- ・本時のねらいは、プラス面とマイナス面の影響をとらえることであるが、社会認識を深めさせたいと思い、開国の是非についても考えさせた。
- ・当時の国民生活に視点を当てて考えたさせたかったが、条件整理が甘かった。
- ・学級内の学力に差はあるが、課題解決に努力した。



【研究授業の様子】

② 協議

- ・開国の是非を判断する人々の立場がはっきりとしなかったため、当時の人々だけでなく、現代の日本人の思いが出てくるなど、話し合いが焦点化されていないところがあった。
- ・複数の立場（蘭学者、町人、幕府の武士など）を班ごとに割り当て、当時の人々の様々な思いにふれさせながら、開国の影響について探っていく方法もある。
- ・生徒に力があると感じた。資料に基づいて調べたことを発表することは難しいが、よくできていた。
- ・グループでの話し合いは、「資料を読み取る」「意見を出し合う」「練り合う」といった具合に、段階を細かく区切って進めていくと効果的である。

- ・電子黒板を効果的に使うなど、多くの資料を工夫して示していた。必要な資料を吟味して精選することも考えていきたい。
 - ・授業の流れをスムーズにと教材準備の努力が見られたが、内容的に盛りだくさんなので2時間扱いでもよかった。
 - ・生徒に学びの必要性をもたせられるように、資料から出てきた疑問を生かして、学習課題を設定するという方法もあるだろう。
- (2) 新学習指導要領実施に向けて
- ・地理的分野が大きく変わる。現1年生については、移行措置のものと現行のものどちらで行うかは各校に任せられている。静態地誌的な学習ではなく、社会の変化に対応する資質や能力を育成する観点から、動態地誌的な国土認識の充実を図る学習を目指したい。
 - ・歴史的分野は、現代社会についての理解を深めて、近現代の学習を一層重視することから、現2年生は3年次に40時間行う。今年度の歴史の学習範囲を確認しておきたい。
 - ・公民的分野では、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方をを用いて、政治や経済、国際関係などの現代社会に関する諸事象をとらえ、理解を深められるようにさせたい。
- (3) 指導助言（多賀谷 雅人 指導主事）
- ① 本時の授業について
- ・資料は、必要な情報を収集するためのものと、思考・判断の手段となるものに大別される。根拠を明確にして考えたり、話したりするために、資料の読み取りの手助けとなる解説文などは省いて提示したい。
 - ・新学習指導要領は、「思考・判断・表現」する力と、確かな「理解」が重要視される。個人で考える、資料を読み取る、グループで話し合う、全体で発表し合うなどの時間や場の確保を大切にしたい。
 - ・価値判断をさせる場合には、論点を明確にするための視点をもたせたい。
 - ・男子の発表内容がすばらしかった。評価については、本時のねらいは達成されていたと思う。
- ② 単元について
- ・内容の取扱いについては、常に新学習指導要領に目を通すなどして、留意点を確認しながら単元構成をしてほしい。
- ③ 歴史学習全般について
- ・「〇〇時代は□□□な時代である。」というように、それぞれの時代の特色を押さえながら歴史を大観できるようにさせたい。ゴールを明確にした授業づくりとともに、人物の足取りや条約の内容など、歴史的事実をしっかりと確認していく。その上で当時の人々の思いや願いをとらえさせたい。

4 成果と課題

- (1) 成果
- ・研究授業を通して、社会科学習の中心となる問題解決的な学習の在り方や資料提示の仕方を再認識することができた。また、疑問から課題へ、予想を立てることの大切さも確認した。
 - ・新学習指導要領の完全実施に備えて、最終確認を行い、各自の見通しをもつことができた。
 - ・現在の進捗状況や次年度に向けた各校の動向や普段の取り組みを出し合うことができた。
- (2) 課題
- ・ねらいに迫るための学習課題の設定や、学習過程・学習形態の工夫、教師の支援の在り方など、教材研究をしながら考える必要がある。その際、学習指導要領に必ず目を通していく。
 - ・目前に迫った新学習指導要領の完全実施に備え、年間指導計画を作成しなければならない。特に、現1年生については、地理的分野にて引き継ぎをしっかりと行うこと。現2年生については、3年生になったときに歴史的分野からはじめ、公民的分野につなげていくこと。